

福山駅前広場の使い方について

2023年（令和5年）9月25日

福山市 建設局 福山駅周辺再生推進部 福山駅周辺再生推進課

●一体的で柔軟な運営

- 駅まち空間内の都市アセットは、基本的に連続する動線で繋がっている。そのため、ユーザーの目線に立ち、それぞれの管理区分を超えて、**一体的な管理・運営を行うことが望ましい**。
- 例えば、都市再生推進法人などのエリアマネジメント組織等により、関係者間の連絡調整をはじめ、広告事業やイベント開催等の横断的な取組を実施すること等が考えられる。
- 一方、多様な活動の促進により駅まち空間の価値を高めていくために、季節や時間帯に応じて都市アセットの使い方を柔軟に変えていくことも考えられる。
- そのためには、**計画・事業化段階だけでなく、管理・運営段階においても、関係者間で連携して、可変的・多目的な活用を行うことが望ましい**。

駅まちデザインの手引き（国土交通省）より引用

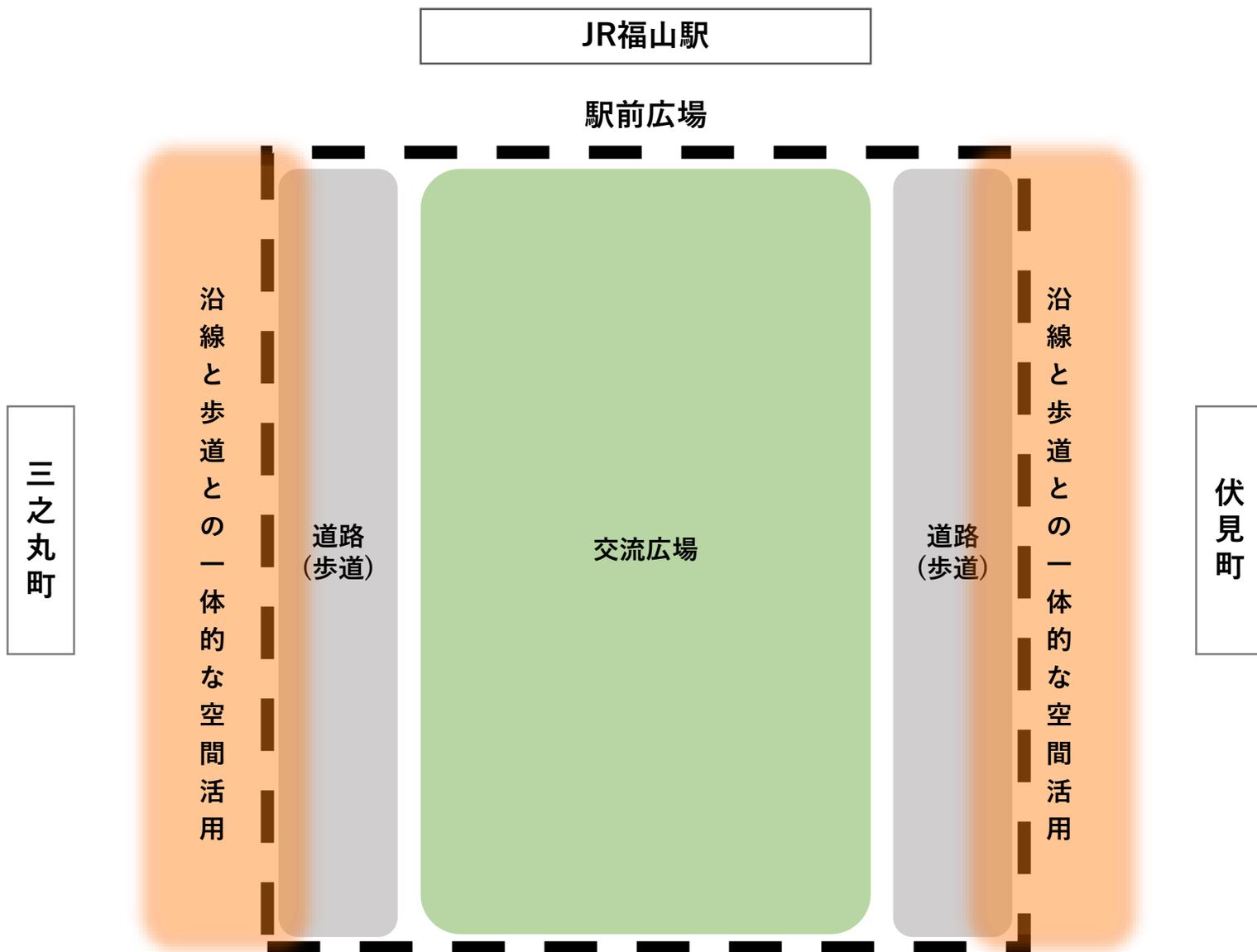


出典：駅まちデザインの手引き（国土交通省）

駅前広場の使い方（概念図・案）

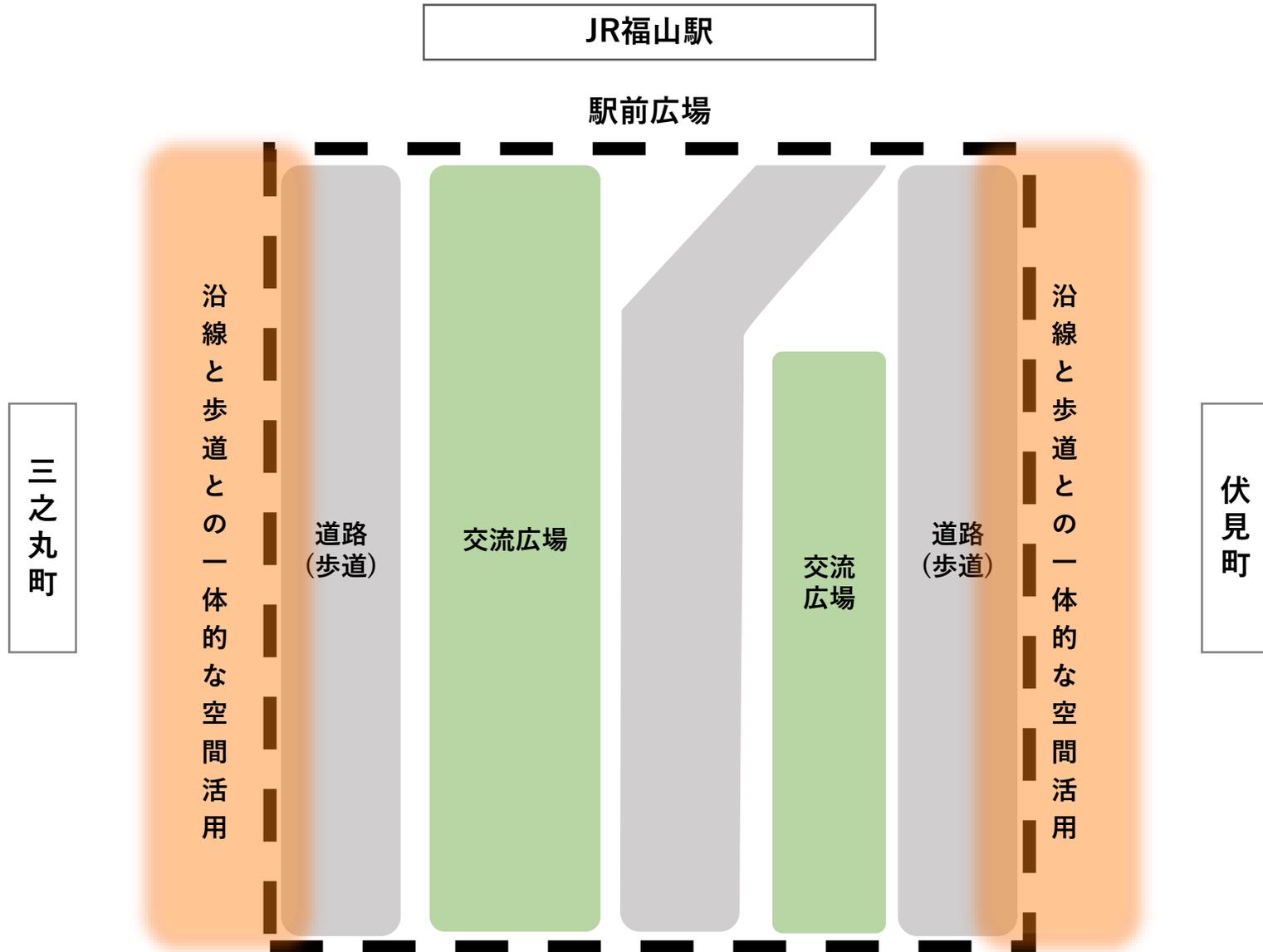
●D案の場合

本資料では、駅前広場に生み出す人々が集い・憩い・くつろぐための広場のことを「交流広場」と呼ぶ。



駅前広場の使い方（概念図・案）

●C案の場合



交流広場の運営に関する方向性（案）

（１）交流広場運営事業の目的

- ・備後圏域（瀬戸内地域）の玄関口としての価値向上
- ・広場周辺のエリア価値向上
- ・市民の愛着・誇りの醸成

（２）交流広場の役割（目的達成のために広場がすべきこと）

- ・広場で出会う人や情報を通して、ふくまちエリアや備後圏域（ひいては瀬戸内地域）の価値・魅力を発信すること
- ・居心地の良い空間づくりやその活用によって広場への来訪・滞在者を増やすこと
（広場周辺の飲食、物販、サービス等店舗に対する需要や公共交通需要を高める）
- ・福山城遺構の歴史的な価値を伝える象徴となること

（３）整備・運営・管理の方法

- ・上記の目的を達成するためには、広場周辺の店舗などと連携した広場空間の活用や地域の価値・魅力を効果的に発信するなど、ふくまちエリアや備後圏域の再生・発展を見据えたまちづくりに関する新たな発想やノウハウが必要。そのため、こうした発想やノウハウに長けた民間事業者と連携しながら、交流広場の運営管理を行っていく。
- ・運営管理（交流広場の使い方）を見据えた設計・施工ができるよう手法を検討する。
- ・サウンディングでの意見も踏まえて検討する。

（４）求める事業者像

- ・エリア再生の視点を持つ。（敷地主義ではない）
- ・企画力や多様な人のネットワークを持つ。
- ・エリアの価値を高めることへの動機（なぜこの事業をしたいのか）がある。
- ・遺構の歴史的な価値や市民の思いを理解し、それらを尊重した広場活用ができる。

（５）スケジュール

- ・ 2024年度 サウンディング，募集要項検討，公募・選定，駅前広場整備基本計画の策定
- ・ 2025年度以降 駅前広場整備の設計

●交流広場の運営に関する方向性について

- ✓ 交流広場の役割は何か。駅周辺の公園との役割の違いとは。
- ✓ 整備・運営・管理の方法はどうあるべきか。
- ✓ どのような事業者を求めるか。